

令和7年3月14日  
総合政策局バリアフリー政策課

### 第18回 国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰を実施します ～バリアフリー化に関する優れた取組みの普及に向けて～

令和7年3月18日（火）に第18回「国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰」を実施し、バリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた取組みを表彰します。

国土交通省では、国土交通分野におけるバリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた個人又は団体を表彰し、バリアフリー化に関する優れた取組みを広く普及・奨励することを目的として、「国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰制度」を平成19年度に創設しました。

今般、第18回目となる受賞者を決定し、下記のとおり表彰式を開催します。

#### 1. 表彰式

##### (1) 記念講演会

日時：令和7年3月18日（火）15：00～

場所：10階共用会議室

東京都千代田区霞が関2-1-3 中央合同庁舎3号館

内容：・選考委員（別紙1）からの講評

・受賞団体から取組内容のプレゼンテーション

##### (2) 表彰状授与式

日時：令和7年3月18日（火）16：20～

場所：国土交通省4階幹部コーナー会議室1

東京都千代田区霞が関2-1-3 中央合同庁舎3号館

内容：大臣より表彰状の授与予定

#### 2. 受賞者

- ・宇都宮市・芳賀町・宇都宮ライトレール株式会社

（全線新設LRT「ライトライン」におけるユニバーサルデザインと地域活性化の展開）

- ・社会福祉法人ながよ光彩会

（無人駅における社会福祉法人の乗降介助業務等の受託を契機とした、心のバリアフリー推進活動とまちづくり）

- ・広島市

（新設サッカースタジアムにおける多様なユニバーサルデザインの深化）

※ 受賞内容の詳細は別紙2のとおりです。

※ 取材・傍聴ご希望の方は、令和7年3月17日（月）17時までに、所属、氏名、連絡先、取材・傍聴希望の旨を以下メールアドレスにご連絡ください。なお、一般の方は（1）のみ傍聴可となります。

問い合わせ先：総合政策局バリアフリー政策課

TEL 03-5253-8111（代表）内線 25505、25522、25516（三井、斉藤、平塚）  
03-5253-8304（直通）

メール：hqt-sousei-barrierfree★gxb.mlit.go.jp（「★」を「@」に置き換えてください）

国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰 選考委員一覧

(敬称略・順不同)

秋山 哲男 [委員長] (中央大学研究開発機構教授)

高橋 儀平 (東洋大学名誉教授)

新田 保次 (大阪大学名誉教授)

河野 康子 (一般財団法人日本消費者協会理事)

## 宇都宮市・芳賀町・宇都宮ライトレール株式会社

### 全線新設LRT「ライトライン」におけるユニバーサルデザインと 地域活性化の展開

#### ●取組の概要

宇都宮市・芳賀町が軌道整備事業者として軌道施設・車両の整備や維持管理を行い、宇都宮ライトレール株式会社が軌道運送事業者として運行サービスを提供している。まちづくりと一体的にLRTが整備されており、沿線人口の増加や自動車からの転換による、交通量の減少等の効果が見られる。

○停留場における段差・隙間について、多くの障害当事者が乗降可能となるよう全ての停留場を整備している唯一のLRT。また、車椅子でも単独乗降しやすいよう幅員の確保や全ての停留場にスロープを設置するなど、工夫をしている。



段差が少ない乗降口



停留場のスロープ

○市街地周辺における停留場付近の横断歩道は視覚障害者向けにエスコートゾーンが整備されている。

○バスとの便利な乗り換えができるように、トランジットセンター(交通結節点)の整備等、高齢者や障害者のみならず地域住民の外出機会を創出している。



エスコートゾーン



宇都宮駅東口

## 社会福祉法人ながよ光彩会

### 無人駅における社会福祉法人の乗降介助業務等の受託を契機とした、心のバリアフリー推進活動とまちづくり

#### ●取組の概要

2023年9月より、一部時間帯(正午以降)無人駅となるJR長与駅構内に、カフェ・ショップ機能等を持つ「GOOOOOOD STATION(グッドステーション)」を開設し、簡易委託により駅における乗降介助・改集札・案内・清掃の業務を請け負うなど、高齢者や障害者を含む全ての人が安心して駅を利用できる取組を継続して実施している。

○医療・介護分野のノウハウを持つ社会福祉法人であることを活かし、乗降介助業務を受託している。鉄道会社から外部の社会福祉法人への乗降介助業務の委託は先進的な事例である。



白杖使用者の介助



車椅子使用者の介助

○障害当事者や長与町、JR九州等に働きかけ、長与駅および停車中の鉄道車両を使用して、地域住民や一般企業等の様々な属性の方を対象に、無人駅における助け合いを促進することを目的とした、座学とロールプレイングで「心のバリアフリー」を学ぶ研修プログラム(ユニバーサルアクションプログラム)を実施している。

○このほか、駅構内に開設したカフェ・ショップの運営等様々な取組により、安心安全の確保や、賑わいの創出等の地域活性化を試みている。



ユニバーサルアクションプログラム



駅構内に併設されたカフェ

## 広島市

### 新設サッカースタジアムにおける 多様なユニバーサルデザインの深化

#### ●取組の概要

サッカースタジアムを新設するに当たって、障害当事者を含むワークショップを丁寧に行い、あらゆる人たちが快適に観戦できるよう配慮された設備をより多く配置している。

○感覚過敏等の特徴がある子どもたちとその家族が安心して観戦することができるセンサーリールームを常設している。また、室内に、外部から音や光を遮り、静かに過ごせる場所であるカームダウンスペースも設置している。



センサーリールーム

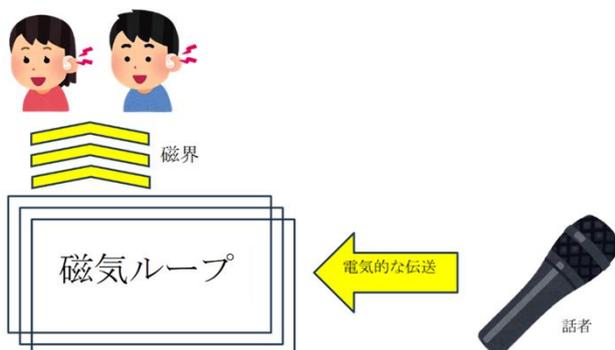


カームダウンスペース

○聴覚障害者が利用しやすくするため、観客席下の磁気ループにより、雑音に邪魔されず、場内音声を補聴器や人工内耳に届けることが可能な観客席(集団補聴設備)を設置している。

○電動車椅子利用者が充電しながら観戦できるようにするため、各エリアの車椅子席にコンセントボックスを整備している。

補聴器からクリアな音



集団補聴設備



車椅子席(コンセントボックス付)